



フォーサイド グループ 2022年12月期 決算説明資料

補足説明資料



2022年12月期 連結業績ハイライト

(単位：百万円)

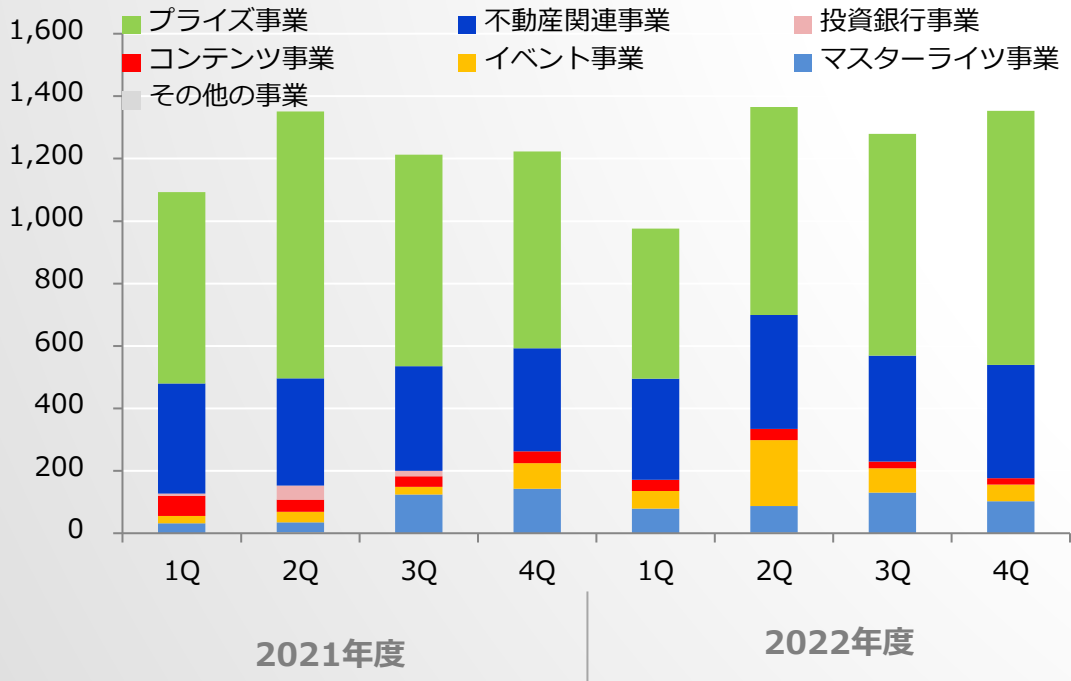
	2021年度 通期	2022年度 通期	前年比	主な増減要因・傾向
営業収益	4,894	4,988	101.9%	<p>2022年12月期の営業収益は、不動産関連事業が堅調に推移したことに加え、Popteenの出版事業が通年寄与。プライズ事業は、年間を通して堅調に推移したものの、前年同期の人気キャラクターグッズ売上の反動減を補うまでには至らず、グループ全体では前年比101.9%の微増となった。</p> <p>利益においては、プライズ事業での急激な円安による仕入コストの増加、不動産関連事業では、滞納者が増加したことに伴い貸倒引当金繰入額が増加した結果、営業損失は75百万円、経常損失は74百万円と大幅な赤字となった。</p> <p>また、当連結会計年度において、のれんの減損及び固定資産の減損等33百万円を特別損失として計上したこと等により、親会社株主に帰属する当期純損失は、107百万円となった。</p>
売上総利益	1,959	1,821	93.0%	
販売管理費	1,772	1,897	107.6%	
営業利益	187	△75	—	
経常利益	182	△74	—	
親会社株主に帰属する 当期純利益	85	△107	—	

売上原価、販売管理費ともに増加

プライズ用景品の需要は増加し、堅調に推移したものの、グループ全体の損失を補うには至らず

営業収益の成長推移

(単位：百万円)



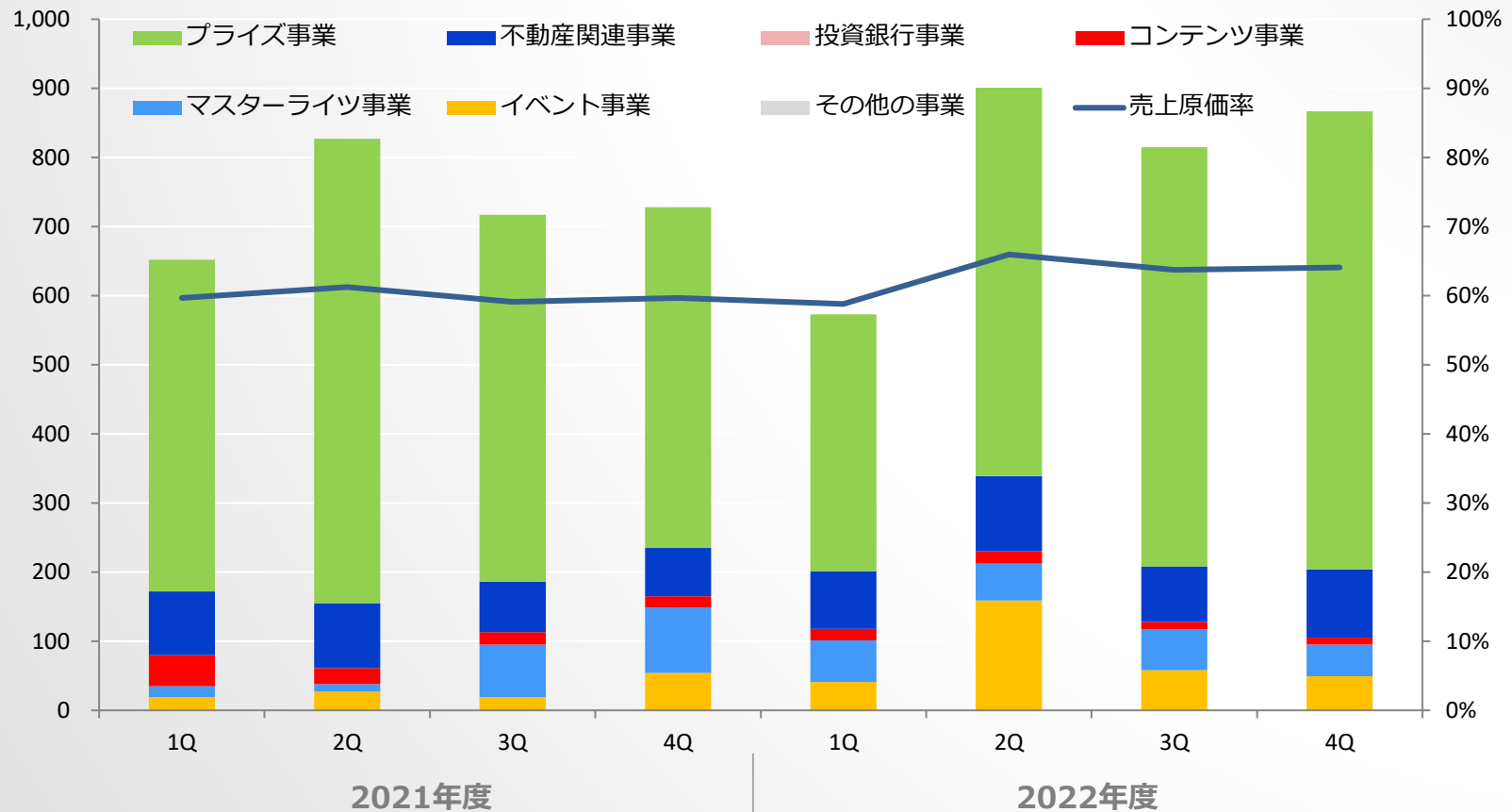
グループ全体の営業収益は堅調に推移

セグメント別の主な増減要因

プライズ事業	プライズ事業では、景品の需要は年間を通して堅調。一方で、前年同期の人気キャラクターグッズ売上の反動減を補うまでには至らず。利益面においては、急激な円安進行による円換算での仕入コストの上昇、エネルギー価格高騰による海上輸送費の上昇等により、利益は大幅に減少。
不動産関連事業	不動産関連事業では、新規取引店の獲得並びに既存取引先の再稼働等、営業強化・拡大に向けて取り組む。管理回収面においては、与信審査及び債権管理業務の効率化に取り組むも、営業強化・拡大によるコスト増加や滞納者が増加したことに伴い貸倒引当金繰入額が増加したこと等により、セグメント利益は減少。
投資銀行事業	投資銀行事業では、案件の成約に至らず、セグメント損失を計上。なお、2023年1月1日付でフォーサイドフィナンシャルサービスの株式を譲渡し、本事業から撤退。
コンテンツ事業	コンテンツ事業では、電子書籍配信サイト「モビぶっく」において、費用対効果を重視したプロモーション施策を継続。また、取扱い作品数の拡充やユーザビリティの向上を図ることで、顧客継続率の維持に取り組む。一方で、2022年7月以降、auスマートパス「アプリ取り放題」が終了したことに伴い、セグメント損失を計上。
マスターライセンス事業	マスターライセンス事業では、2回の単独ワンマンLIVEを開催する等、音楽事業の収益は緩やかな回復傾向にあるも、利益の確保には至らず。出版事業においては、デジタルネイティブ世代に向けたSNS展開の強化を図り、事業収益の拡大を目指すも、雑誌販売数の減少及び紙代・印刷代の高騰により、制作コストを賄うことができず、セグメント損失を計上。
イベント事業	イベント事業では、「PSYCHOVISION hide MUSEUM Since 2000」を名古屋で開催。その他のイベントについても、来場者数は回復傾向にあり、物販は好調に推移。
その他の事業	金融事業での貸付金の回収にくわえ、コンサルティング案件の成約により、セグメント利益を確保。

売上原価の推移

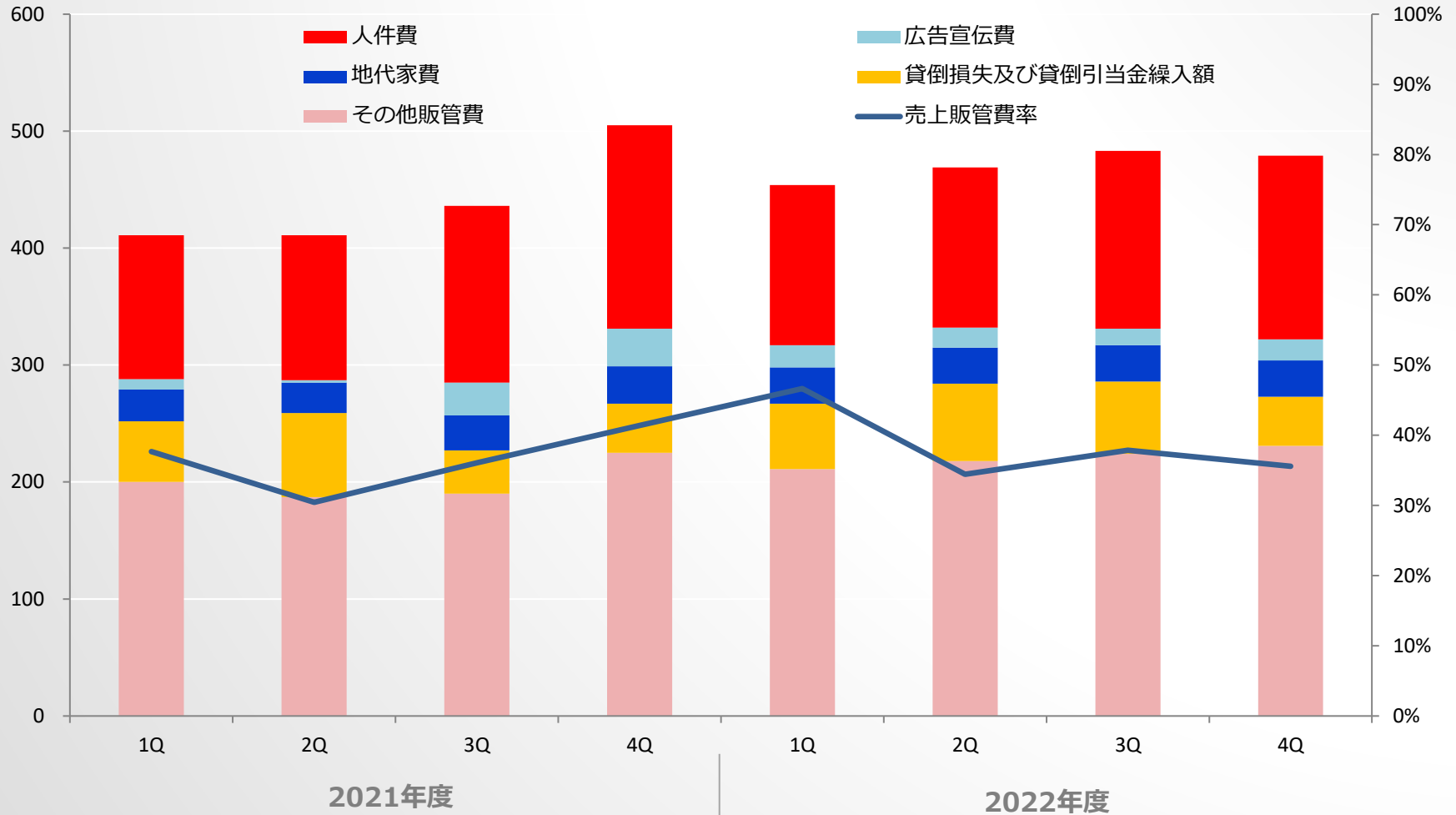
(単位：百万円)



急激な円安進行により、プライズ事業の円換算での売上原価が大幅に増加

販売管理費の推移

(単位：百万円)



不動産関連事業における貸倒引当金繰入額が増加

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2021年度末	2022年度末	増減金額	主な増減要因・傾向
資 産	4,426	4,249	△177	資産については、現金及び預金の減少322百万円、売上債権の増加100百万円及び収納代行未収金の増加132百万円等により、前連結会計年度末に比べ177百万円の減少となった。
負 債	3,259	3,193	△66	負債については、長期借入金の減少110百万円、未払金の増加123百万円及び未払法人税等の減少116百万円等により、前連結会計年度末に比べ66百万円の減少となった。
純資産	1,166	1,055	△111	純資産については、親会社株主に帰属する当期純損失107百万円を計上したこと等により、前連結会計年度末に比べ111百万円の減少となった。

(注) 2023年2月13日現在、発行済株式総数は32,557,704株、資本金は100百万円です。

当期純損失107百万円を計上し、純資産は減少



主力事業の活動展開状況

プライズ事業の展開



前年同期比では減収であるものの、売上は堅調に推移
急激な円安進行により仕入コストが急増

不動産事業の展開



「滞納報告プラン」

57,378件⇒

55,258件

入居者様の家賃支払い滞納が発生した場合、オーナー様からの報告受けた時点で、オーナー様又は管理会社様へ代位弁済するサービスプランを提供。



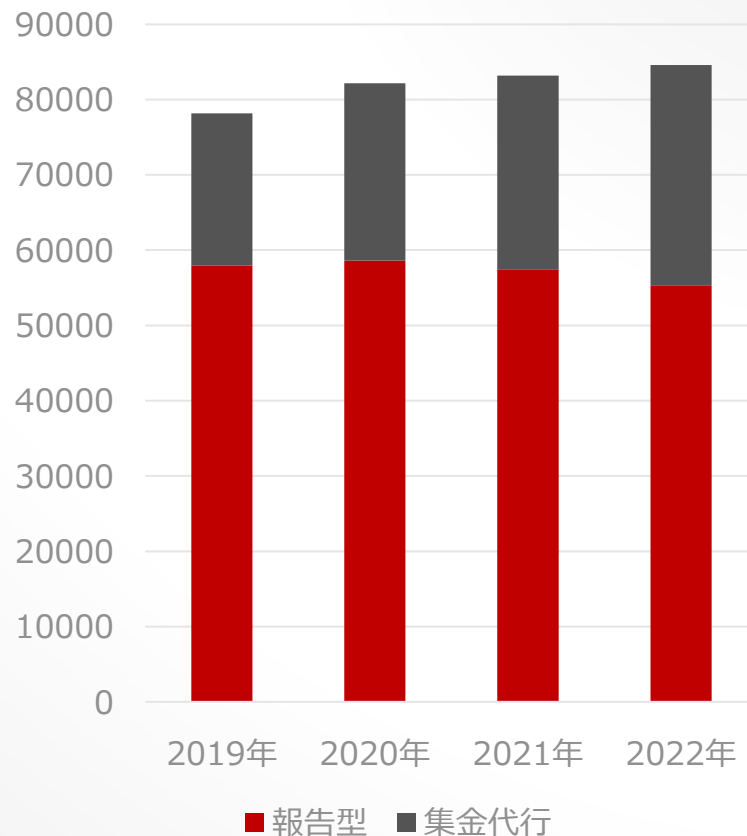
「集金代行プラン」

25,825件⇒

29,319件

金融機関と提携し賃料の集金を代行。不動産オーナー様にとって、確実な賃料収入の保証と、業務の効率UPが見込めるサービスプランを提供。

保証債務件数の成長推移



家賃保証サービスの需要は好調に推移

滞納者が増加したことに伴い貸倒引当金繰入額が増加

マスターライセンス事業の展開



デジタルネイティブ世代に向けたSNS展開の強化を図るも、

雑誌販売数の減少及び紙代・印刷代の高騰により、制作コストを賄うことができず

投資銀行事業・音楽関連事業からの撤退

回復の見込みが立たない投資銀行事業及び音楽関連事業に属するフォーサイドフィナンシャルサービス株式会社及び株式会社マーベラスアークの株式を2023年1月1日付で全株式譲渡し、各事業から撤退。

2023年12月期は、当社グループの連結の範囲から外れる

【投資銀行事業】



【音楽関連事業】





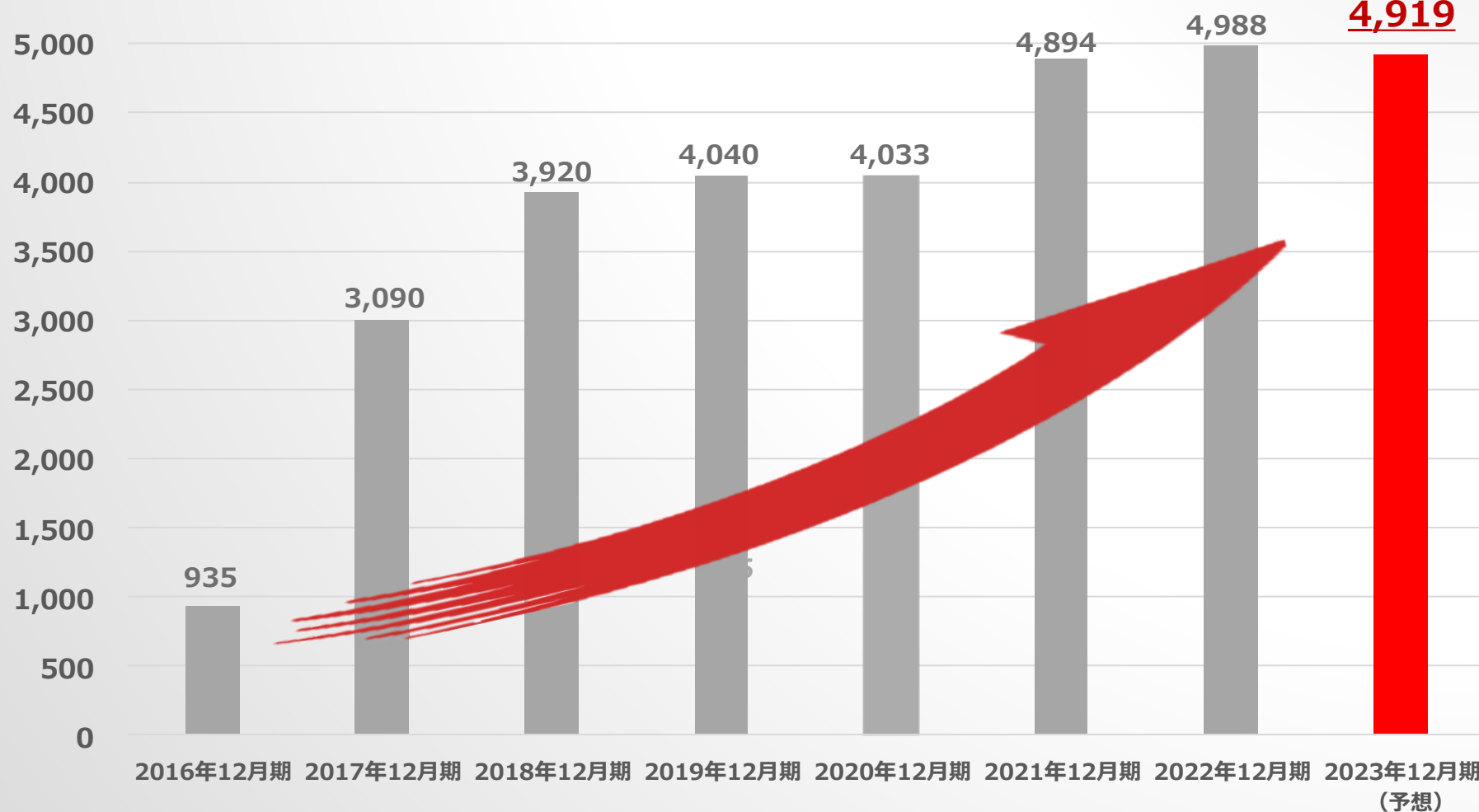
2023年12月期の業績見通し

連結営業収益（通期予想）

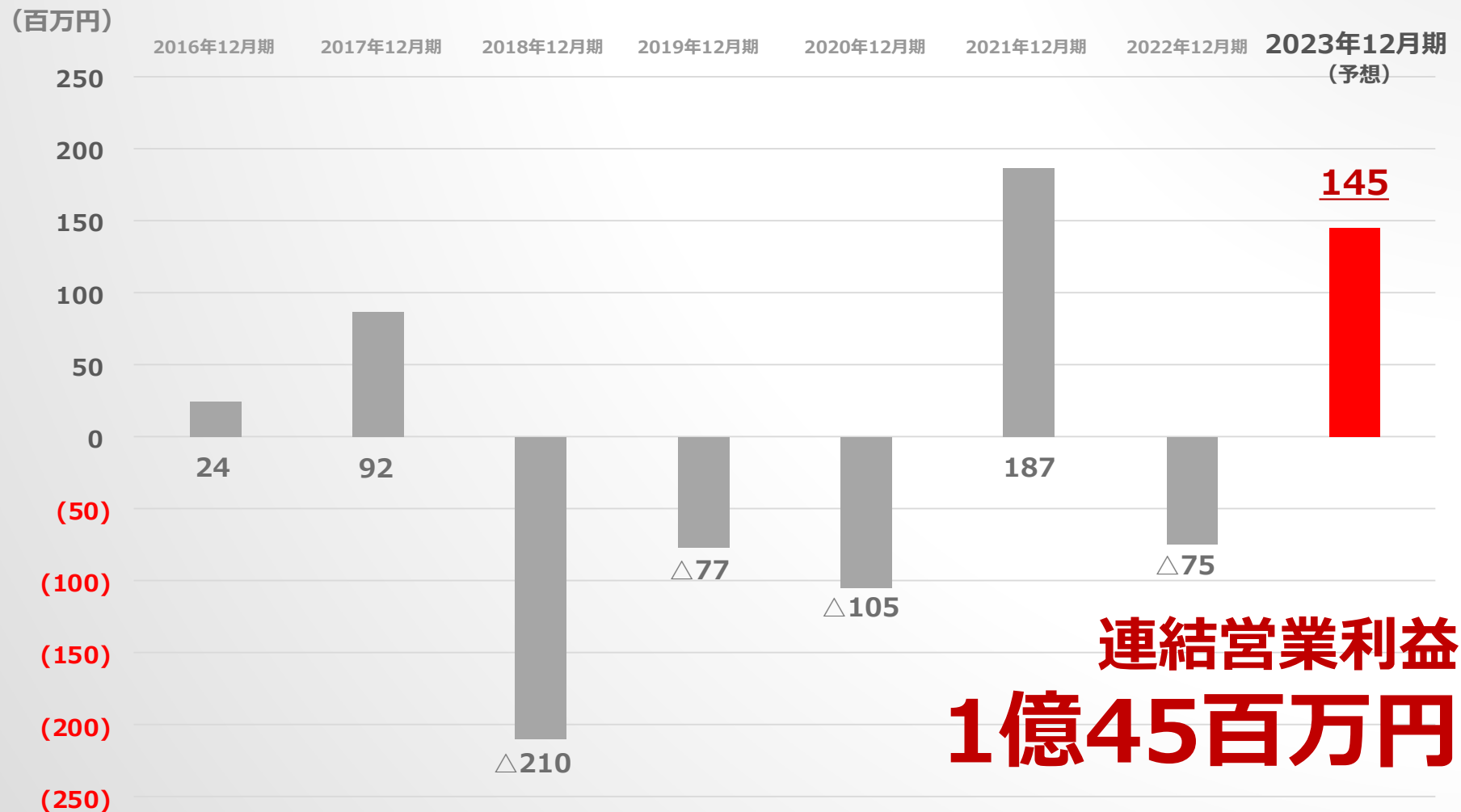
連結営業収益49億19百万円

（前年比1.4%減）

（単位：百万円）



連結営業利益（通期予想）





参考資料（グループ概要）

フォーサイドグループ概要

会 社 名

株式会社フォーサイド (持株会社)



所 在 地

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町三丁目3番1号 E.T.S.室町ビル8階

設 立 日

2000年3月31日 (2002年10月10日 JASDAQ上場 証券コード2330)

資 本 金

100,000,000円 (2023年2月13日現在)

経 営 陣

代表取締役 根津 孝規 常務取締役 飯田 潔 常務取締役 吉田 生喜
取締役 泉 信彦
監査等委員 法木 右近 監査等委員 田辺 一男 監査等委員 瀬山 剛

顧 問

法律顧問 TMI総合法律事務所

事 業

・株式等の保有を通じたグループ企業の統括及び管理等

主な子会社

(2023年2月13日現在)

・(株)ブレイク：プライズゲーム用景品の企画・製作・販売/イベント企画・運営
・日本賃貸住宅保証機構(株)：賃貸家賃保証/不動産仲介売買/賃貸管理事業
・(株)ポップティーン：電子書籍配信事業/出版事業
・フォーサイドメディア(株)：出版事業
※フォーサイドフィナンシャルサービス(株)及び(株)マーベラスアークは、2023年1月1日付で保有する全株式を譲渡し、当社グループの連結の範囲から外れております。



—免責事項について—

本資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは本資料の作成時点において入手可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。実際の業績はかかるリスク及び不確実性により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。かかるリスク及び不確実性には、市場リスク、日本円と米ドルとその他外貨との為替レートの変動、その他事業を取巻く様々なリスク及び当社が継続して業務を展開する上で不可避の潜在的リスクである経済状況、サービスの成否、他社との競争状況などが含まれますが、これらに限定されるものではない不確実性が含まれていることをご留意ください。なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は株式会社フォーサイドに属します。